

特別養護老人ホームの建て替えに伴う環境移行に関する研究 ～建て替え前施設の入居者及び介護職員の行動と空間利用の様態～

キーワード：特別養護老人ホーム，建て替え，環境移行
行動観察調査，従来型施設

石井研究室 佐藤 夏穂
高橋 大都

1. 研究の背景と目的

特別養護老人ホームは1963年の老人福祉法制定とともに創設された介護居住施設である。効率的に介護が行えるよう集団処遇が前提の空間計画がされ、4人部屋と廊下、食堂・ホールを中心とした「施設的」な環境が一般的だった。そのため、居住環境が十分でないものが多い。また、築40年前後経過した施設も多く、老朽化による建て替えの時期が迫っている施設も多い。

一方、施設のあり方はこの20年で大きく変化してきた。介護のための施設から暮らしの場としての施設づくりに焦点が移り、個室を前提とし、より家庭的な環境で、個別的なケア（ユニットケア）を推進するようになった。

本研究では、多床室・大規模処遇型から個室・ユニットケア型への建て替え・移転を予定している施設を対象として「環境移行」の観点から、施設空間とケアの変化が入居者と介護職員の生活やケアに与える影響（効果）を明らかにすることとする。同じ利用者（入居者・職員）がそのまま新しい施設環境に移行することにより、空間の変化が与える影響をとらえることが容易となる。

今回は建て替え前の入居者と介護職員の行動と空間利用の実態を記録・分析することで新施設移行前の状況を確認し、建て替え後の比較研究に繋げるものとする。

2. 調査対象施設の概要及び調査方法

調査対象のS施設は、山梨県上野原市にある。従来型の特養（定員81名）であり、4つのフロア（介護単位）で構成されている（表1）。調査は2019年6月12～14日の3日間行った。1日目は施設内のベッドや家具の配置などを確認し平面図に記録（予備調査）、2日目は入居者の行動観察調査（7時～19時）を行った。フロア毎に4人の調査員を配置し、10分毎に入居者の「滞在場所」「行為」「姿勢」「支持具」を記録した。3日目は職員の追跡調査（7時～19時30分）を行った。19名の介護職員を対象に各1人の調査員が帯同し、1分毎に介護職員の「滞在場所」「行為」「姿勢」等を記録した。

3. 調査結果

3-1. 入居者の調査結果

全体の滞在割合の分析より、共用部での滞在が多いことが示された（図1）。行為では「無為」や「睡眠」で5割以上を占め、共用部に居るものの活動が少ない（図2）。姿勢は「イス座位」が多い。車イスで生活をしている入居者が85.2%を占めていることと関係する（図3）。

表1. 入居者属性

		全体	旧館1階	旧館2階	新館2階	別館1階
入居者数		81	19	23	25	14
性別	男性	19(23.5%)	4(21.1%)	4(17.4%)	5(20%)	6(42.9%)
	女性	62(76.5%)	15(78.9%)	19(82.6%)	20(80%)	8(57.1%)
平均年齢		88.8歳	88.6歳	87.6歳	89.1歳	90.4歳
平均要介護度		3.5	3.7	3.1	3.7	3.6
認知症度	軽度	27(33.7%)	7(36.8%)	11(47.8%)	5(20.0%)	5(35.7%)
	中度	33(41.3%)	5(26.3%)	8(34.8%)	13(52.0%)	7(50.0%)
	重度	20(25.0%)	7(36.8%)	4(17.4%)	7(28.0%)	2(14.3%)

入居者の空間利用の様態から生活タイプを分類すると4つの類型が確認された。半数以上の入居者が「共用部滞在型」だが、その他に「双方滞在型」や「移動型」も見られ、移動による場所の転換が多い入居者もいる。（図4）。またフロアの平面構成の違いから、空間利用や行為の相違もみられる（図5, 6）。

3-2. 介護職員の調査結果

直接介護量（入浴・排泄・食事などに係る介助）の発生状況とその量の分析より、介護職員によって66.7%～18.1%と直接介護量に差異がみられた。平均要介護度が低い旧館2階では、入居者一人当たりが受ける直接介護量は8.1分/人と低い。基本的な生活がプログラム化されている状況が介護の提供状況からも見て取れる。

4. まとめ

本調査より、入居者の半数以上がホールで生活している実態が明らかになった。また、施設主導のスケジュールにより生活が展開してた。一方で、入居者の個々による生活様態の相違や、フロアの形状による空間利用や行為の違いも見られた。空間のあり方が空間利用に少なからず影響している。また、空間が単調な構成のため生活も単調になっている。自力で移動できない人も多く、同じ空間で長く過ごす状況が生じる。

建て替え後の施設では、心地の良い環境づくりと同時に、職員との関わりや日常的な刺激をいかにして生み出していかも課題となる。建て替えによる環境移行が、空間の利用様態や介護にどのような影響が及ぼすのか、継続的な調査が必要となる。

謝辞

本調査は東北工業大学研究委員会の承認を得て実施している。この場を借りて調査にご協力くださった施設法人、施設の入居者、職員の皆様には心から感謝申し上げます。なお、本研究は近畿大学山口健太郎研究室、京都大学三浦研究室と共同で実施し、延べ31人（実人数16人）の調査員で調査しデータを収集したものです。調査に関わった皆様に感謝申し上げます。

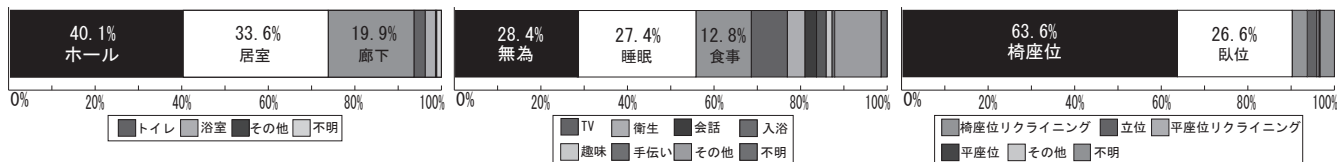


図 1. 入居者全体でみた滞在割合

図 2. 入居者全体でみた行為割合

図 3. 入居者全体でみた姿勢割合

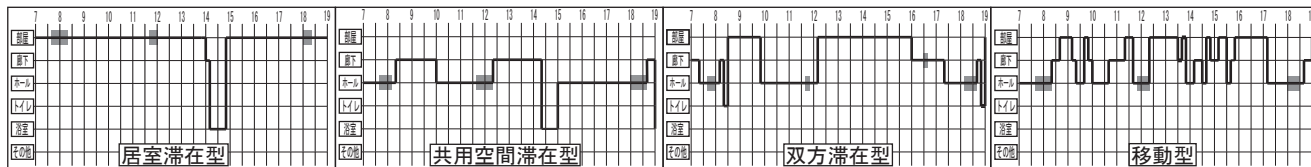


図 4. 入居者の生活タイプ

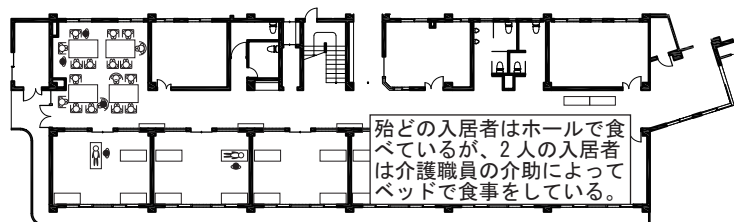


図 5-1. 空間利用 旧館 1 階 (11:50 屋食)

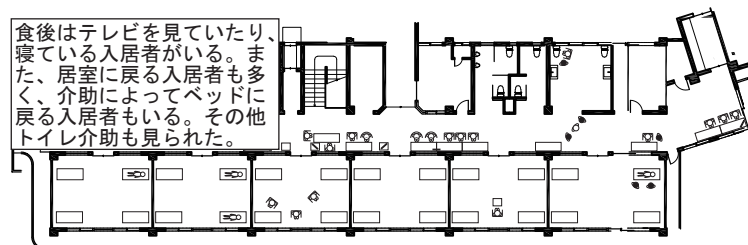


図 5-2. 空間利用 旧館 2 階 (12:30 屋食後)

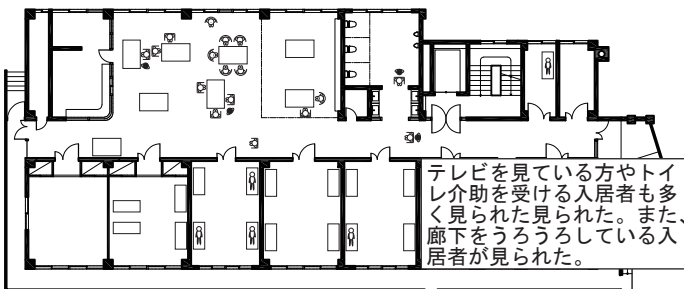


図 5-3. 空間利用 新館 2 階 (15:00 おやつ後)

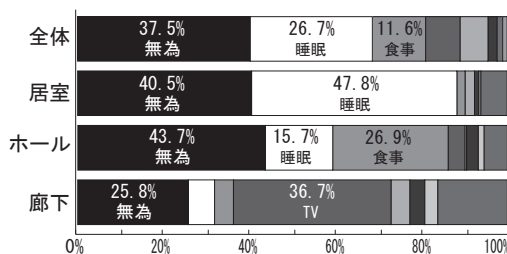


図 6-1. 旧館 1 階の行為割合

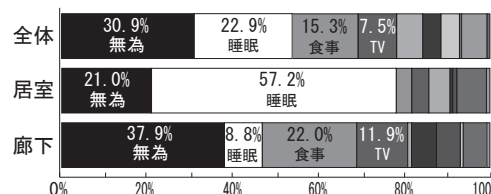


図 6-2. 旧館 2 階の行為割合

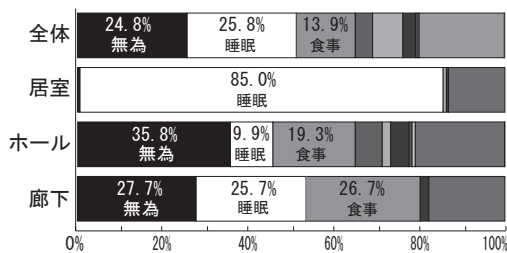


図 6-3. 新館 2 階の行為割合

2019.06.14		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	直接介護時間(A)	勤務時間	直接介護割合	入居者1人あたり(A/B)	入居者1人あたり(勤務時間別)
主な介護内容		起床・朝食	朝食・トイレ	トイレ・入浴	入浴	入浴・昼食	昼食	入浴	入浴・トイレ	入浴・おやつ	おやつ	夕食	夕食・トイレ	就寝					
旧館1階	夜勤 AT														72分	158分	45.6%	3.8	13.4
	SA														188分	548分	34.3%	9.9	
	日勤 TM														213分	481分	44.3%	11.2	
	TK														363分	560分	64.8%	19.1	
旧館2階	夜勤 KN														86分	188分	45.7%	4.5	8.1
	KH														73分	158分	46.2%	3.2	
	TA														140分	540分	25.9%	6.1	
	YS														263分	541分	48.6%	11.4	
新館2階	日勤 IS														103分	568分	18.1%	4.5	11.4
	YK														158分	424分	37.3%	6.9	
	KY														260分	390分	66.7%	11.3	
	KS														201分	541分	37.2%	8.7	
新館2階	夜勤 SYo														184分	541分	34.0%	8.0	11.4
	HY														70分	166分	42.2%	3.0	
	日勤 SYa														48分	142分	33.8%	1.9	
	SYu														202分	570分	35.4%	8.1	
新館2階	SN														344分	560分	61.4%	13.8	11.4
	夜勤 OA														311分	565分	55.0%	12.4	
															96分	189分	50.8%	3.8	

図 7. 介護職員の直接介護量

～3分 ～8分 ～9分 ～12分 ～15分